

種名	カワラヒワ Carduelis sinica 													
分類	スズメ目アトリ科													
特徴	翼に鮮やかな黄色い模様を持った市街地でも見られる小鳥。アジア北東部で繁殖し、日本では北海道から九州までの各地に留鳥として普通に分布し繁殖する。多雪地のものは、冬は暖地に移動する。冬期には、千島方面から別亜種オオカワラヒワが冬鳥として渡来する。小笠原諸島の亜種オガサワラカワヒラヒワは特殊鳥類。													
生活	繁殖期には平地から低山地のいろいろな林で見られるが、スギ林、マツ林などやや針葉樹を好む傾向があるように思われる。都市部の市街地でも普通に繁殖している鳥の一つである。公園の木などに営巣し、オスがメスに求愛給餌している場面も観察される。非繁殖期には数十羽から数百羽の群れで生活し川原や農耕地などの草の上や地上で草の実を食べる。													
声	繁殖期には「キリキリコロコロ」という明るい声や「ピーピー」という濁った声でさえずる。また、飛びながら「チョンチョンキリキリリ」と鳴くという。地鳴きは「チューイ」という声のようで、幼鳥は「チュンチュンチュン」と連続して鳴くという。													
見分け方	黄色い翼帯を持つ点でマヒワに似るが、カワラヒワは全体に暗い色をしている。													
時期：寒地	(月)	—	—	—	4	5	6	7	8	9	10	—	—	
：暖地	(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
その他	全長(L)15cm 翼開長(W)24cm													
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥														